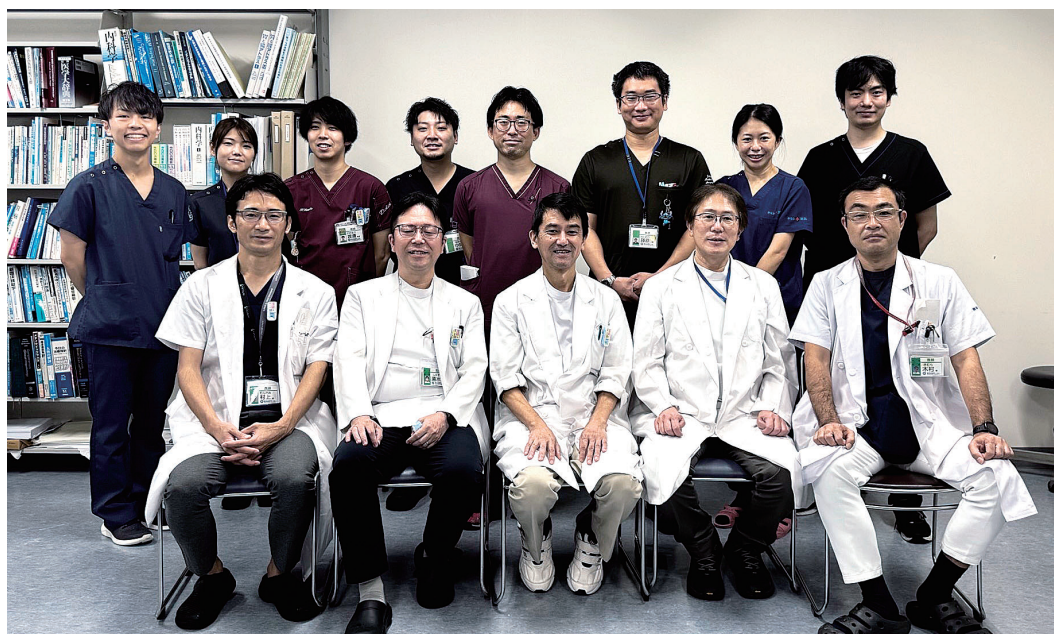


独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359



国立病院機構横浜医療センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院に指定されています。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院です。令和6年4月から、地域がん診療連携拠点病院に昇格しています。

高難度肝胆膵手術を専門とする藤井義郎先生が外科部長として着任されて3年が経過し、先生のご指導で矢澤慶一先生が肝胆膵手術高度技能専門医を取得したことは昨年報告した通りです。また、乳腺外科常勤医として木村安希先生が赴任してから、近隣の先生方からのご紹介が瞬く間に増えて、乳癌手術数が年間100件に達し、2年前に比べ5倍に大幅に増加しました。トピックとして、戸塚区役所で市民公開講座を開催、「あなたのための乳がんセミナー、検診から治療まで」を木村先生に講演して頂き、市民の方々に啓蒙活動を行いました。

診療は、藤井外科部長以下、9名のスタッフと4名の外科専攻医が2チームに分かれて診療を行っています。2024年の主な手術件数は、乳癌切除100例↑、胃癌切除32

例（うち腹腔鏡下手術16例）、大腸癌切除109例（腹腔鏡下手術率92%）、肝切除20例、膵頭十二指腸切除7例、腹腔鏡下胆嚢摘出94例↑、虫垂切除51例↑、単径ヘルニア根治術93例でした。手術総数は733件で、コロナ禍以後で最高の件数でした。

若手外科医にとっては、大小の消化器手術から緊急手術まで幅広く執刀経験ができます。外科専攻医の育成にあたっており、現在5名修練中で、今春1名が卒業します。研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、切開縫合手技以外にも、単径ヘルニアの執刀を経験してもらっています。今年は12人の初期研修医が外科を研修しました。今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思います。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思います。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）





令和6年の外科は、消化器外科7人（うち大学ローテート5人）、炎症性腸疾患外科6人（うち大学ローテート2人）、乳腺外科は3人（うち大学ローテート1人）のスタッフと3人の後期研修医、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れてから16年経過しました。2024年の総手術件数は、外科全体で1,175例でした。内訳は消化器外科約791例、炎症性腸疾患外科約248例、乳腺外科約136例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年より24例減りましたが、腹腔鏡下の手術の割合は96%でした。また、ロボット支援手術は、直腸癌が18例、結腸癌が21例でした。平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は56例行いました。胃癌手術症例数はやや減少しましたが、4月からロボット支援手術を導入し7例施行しました。肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術13例行いました。

乳腺外科は、嶋田和博科長が着任後2年経過しました。手術件数はやや減少したものの、RFAによる治療を開始しました。今後は、地域連携パスのこれまで以上の活用と横浜市乳がん連携病院としてのメリットを生かして手術症例の増加に繋がりたいと思っています。

炎症性腸疾患外科は、前年に比べ手術件数はほぼ同数で、従来通り関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。また鏡視下手術も症例を選んで行なうようになりました。

2020年度から始まった初期研修医のプログラム（外科コース）には、2024年度も多数の応募の中から2名がマッチングしました。また、2024年度の専攻医は1人応募にとどまりました。当院の初期研修プログラムから当院の専攻医を選択する研修医が、一人でも多くなることを期待しています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思っています。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

長年市民病院に勤務されていた小金井一隆先生が、令和7年3月末開業のため退職されました。先生は、専門の炎症性腸疾患の診療、研究、教育はもちろん、市民病院の発展に多大なる貢献をされました。この場を借りて、外科一同先生に感謝の意を表すると共に、先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

（文責：望月康久）



## 横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

I. 当院は最初の東京オリンピックの前年、昭和38年（1963年）12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来60年余になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランからは相模湾越しに絶景が望めます（ホームページをご参照下さい）。

横浜横須賀道路＋近道を使えば横浜方面からもぐっと近く、短時間で通勤可能です。

2024年度のメンバーは管理者・関戸仁（昭58）以下、副院長・診療部長の長嶺弘太郎（平6）、浅野史雄（平17）、中山岳龍（平20）、堀内真樹（平27）、日大出身の杉浦浩朗（平6）ら個性溢れる面々で日夜診療に励んでいます。

II. 外科診療に関しては高齢化社会の波を受け、高齢者の重篤な症例も本当に多くなりました。

患者さんとそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも一丸となって対応しています。

年間の手術症例は350例ほどですが、術者は殆ど若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます（最近のローテーターに確認して頂ければ…）。

医局員の皆さん！是非我々と一緒にここで働いてみませんか。



2024年度（令和六年度）メンバー（2025年3月撮影）

周辺住民の皆さんから信頼され地域に密着した病院で（来れば本当に実感します。）必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。

そして厳しく、激しい仕事の後には横須賀、三浦半島のグルメを堪能してください。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります。

最後になりましたが、同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻のほどを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

追伸：医師の働き方改革、医療DXの推進や、近隣の医療体制の変動等世の中が急速に変化していくのを実感しつつある昨今、本文章に触れていただき有難うございます。

（2025年3月 文責：長嶺弘太郎）



## 茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1  
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

茅ヶ崎市立病院は、1943年12月、第二次世界大戦の最中にその前身である「町立千ヶ崎病」として発足しました。真並木生い茂る、旧東海道国沿いにあった病院は、素朴な木造2階建てであったと聞いています。

それから70年以上経過し、茅ヶ崎市には総合病院が複数設立されましたが、当院は市内唯一の400床以上の病院であり、湘南東部医療圏の基幹病院として機能しています。2016年に山田顕光先生の赴任と同時に設立された乳腺外科は、2022年4月より、和田朋子（平20）、村上剛之（平26）で勤務し、この体制も3年目に入りました。二人とも未就学児がいるため、急な欠勤や、子供のイベントに合わせた有給を許容する働き方を目指しています。その中でも、COVIDの蔓延と周辺地域の乳腺外科の乱立で減少してしまった手術件数は徐々に回復傾向にあります。また、昨年度より形成外科のご協力もあり、ティッシュエキスパンダー／インプラント、広背筋皮弁による再建を始めることができました。

とはいえ茅ヶ崎市は、乳がん検診受診率が県内最低レ

ベルに低く、当院を受診される患者さんは他の地域に比較して進行している傾向にあります。再建よりも治療を優先しようとお話することも少なくない現状ではありますが、選択肢としてご提案できるようになったことは大きな変化だと感じています。

同時に、市立病院として、地域に向けて乳がんに関して情報発信していくことの必要性を強く感じています。この度地域の先生方や患者さんと『乳がんサポート寒川茅ヶ崎』という団体をキックオフすることができ、今後ピンクリボン活動も行っていく予定です。

山田先生、嶋田先生が作り育ててくださった今の茅ヶ崎市立病院の乳腺外科で、きちんと治療をする環境が整っている、ということを地域の先生方、市民の皆様知っていただき、怖がらずに検診を受けていただくように、地域密着で取り組んでまいりたいと思います。

同門の先生方に置かれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：和田朋子）

## 横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211  
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

横浜労災病院は昨年に引き続き常勤医は2名（山本、井上）+非常勤医師で診療を行いました。当院が地域の中で果たす役割を遂行すべく、手術件数を増やし、原発性乳癌に対する手術を213件、その他再発症例・良性疾患に対する手術を17件施行いたしました。また当院は形成外科Drのレベルが高く様々な乳房再建が可能のため、28件の同時再建を施行いたしました。遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対しても、対側予防切除（CRRM）を5件施行いたしました。常勤2人でこれだけの件数をこなせたのもひとえに井上先生が優秀であったこと、非常勤の先生方の多大なる応援があったこと、そして他職種の方々がよりよい診療になるように動いてくれたことだと思います。

さて、近年AIはめざましい進歩を遂げています。乳腺領域のAIといたら何でしょうか。一昔前ならAIといえばホルモン療法のAromatase inhibitorでした。しかし今や乳腺×AIで検索すると最初にでてくるのはやはり人工知能AIです。マンモグラフィの読影や病理診断などをAIを用いることで、精度をあげたり、効率化をはかるなどの取り組みがなされており、学会にもAI-ワーキンググループがたちあがっているほどです。



もしかするとAIと聞いて、歌手のAIさんを思い浮かべる人もいるかもしれませんね。代表曲の一つである“Story”の中に、「一人じゃないから〜」というフレーズがありますが、これはまさにチーム医療の実践、そして病氣と向かい合う患者さんに対しても重要なワードとなるでしょう。

しかしAIで思い浮かべるべき一番重要なものは、やはり“愛”でしょうか。我々横浜労災乳腺外科チームはそれぞれの専門性をいかしながら、お互い助けあって、そして“AI”をもって診療に取り組んでおります。

高い診療レベルをめざし精進していく所存ですので、本年度もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：山本晋也）



## 横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103



横須賀共済病院は、古くは1906年に横須賀海軍工廠職工共済会医院として開設。戦後は海軍共済組合から財団法人共済協会、非現業共済組合連合会へ継承され、その後、国家公務員共済組合連合会（KKR）所属となった歴史のある病院です。

横須賀市、三浦半島における中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、神奈川DMAT指定病院として急性期疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

本年から、横須賀・三浦二次医療圏（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）で、当該地域の病院が中心となり「一般社団法人さくらネット協議会」が設立され、「さくらネット」が始動しました。「さくらネット」とは同協議会が運営するネットワークシステムで、患者の同意の下、個々の患者の医療・介護情報（過去の診療・手術歴、薬剤アレルギー情報等）を、地域の病院、診療所、薬局、介護施設等の間で、相互に共有するものです。

さらに、2019年～2025年まで7年連続でNewsweekに当院がWorld's Best Hospitalの一つに選ばれるなど、国内外に認められております。

医局からの派遣は変わらず、長堀薫院長のもと、舩井秀宣部長、野尻和典部長、小野秀高副部長、諏訪宏和副部長。医長として吉田謙一、太田洋平、鈴木千穂、太田絵美の8名と、シニアレジデント9名の計17名が2～3人ずつの5チームに分かれて診療にあたっておりますが、2024年7月から舩井秀宣部長が湘南病院の院長へ移動となったため、上級医が一人少ない状態で、治療の質を担

保せざるを得ない状態となってしまいました。

2014年4月に就任した長堀薫院長は「若手外科医が楽しんで仕事する。救急は全応需する。」ことを強調されており、若手スタッフは以前よりもさらに多くの手術を経験するようなる傾向にあります。2024年の手術件数は年間1,412件で、昨年より100件近く増えました。一方で、当直後のスタッフのoff dutyが義務化や有給休暇の取得、産休や、男性医師の育休の推進など、忙しいながらも、しっかり休むことが出来る様に努力しております。

病棟は、5チームに分かれて診療にあたっており、チーム内の受け持ち患者は臓器別に分かれていません。また、当院の研修医はやる気のある先生が多く、各チームに配属されて一緒に診療にあたっています。

ロボット支援下手術も積極的に行っており、腹腔鏡下手術を若手の先生に多く執刀していただいております。

術後のフォローアップは従来通り、横須賀医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適応しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期癌患者は、ほぼ全症例、後補助化学療法が必要な患者様も、地域連携パスを導入して紹介していただいた先生方に見て頂いております。

毎月の地域診療所の先生方、病理、消化器内科、外科合同の消化器病カンファレンスを開き、それを発展させた形の横須賀消化器病セミナーを年1回開催しております。

昨年、正式に決定した新棟建築の準備も着々と進んでおります。竣工予定はサプライ棟2026年度、中央診療棟2029年度、エントランス棟2031年度となっております。

厚労省による働き方改革により、24時間365日の外科



医当直から、(日)、(水)、(木)、(土)の外科医当直と、(月)、(火)、(金)はオンコール体制、土日の包交の少人数化(前日の当直医と、当日の当直医の2名のみ)も、軌道に乗ってきており、学会等でもこの試みを発表させていただきました。

当院の理念『よかった。この病院で』が実践できるべく、今後もさらなる地域医療支援、がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、質の高い水準の医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存です。今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：小野秀高)



図1 新棟完成予想図

## 地域医療推進機構(JCHO) 横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1  
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院は全国57か所にある地域医療機能推進機構(JCHO)病院の1つです。許可病床数260床(稼働病床数246)で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。

今年度は大きく診療体制が変わりました。長年当院に多大な貢献をされてきた院長の池秀之先生、部長の上向伸幸先生、谷口浩一先生が2024年3月に退職されました。代わって4月に院長の國崎主税先生、部長の武田和永先生が赴任され、簾田康一郎先生(昭和60年卒)、有坂早香(平成20年卒)、中崎佑介(平成25年卒)、血管外科の斎藤健人先生の6人で診療を行っています。下部消化管の腹腔鏡手術では福浦や関連病院の先生方に指導に来て頂いております。また乳腺外科は非常勤の足立祥子先生に外来診療や手術も担当して頂いております。

2024年度の手術総数は197件でした。内訳は胃癌11例、結腸・直腸癌17例、肝切除6例、胆嚢摘出術65例、鼠径部ヘルニア35例、虫垂切除術14例などでした。低侵襲手術と



して腹腔鏡手術を積極的に行う一方、高度進行癌に対しても術前化学療法や化学療法後のadjuvant surgery, conversion surgeryなども積極的に行っております。当院の特徴として複数の併存疾患を持った高齢者や有症状の進行癌が多く術後管理に難渋することもあります。安全を第一に考え、コメディカルの方々とともに密に連携を取って自宅退院を目標に診療にあたっております。

今後とも、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：有坂早香)



## 横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1  
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市民のための市立病院であり、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院でもあります。

2024年度は、外科では、杉田光隆、中畠雅之先生、佐藤圭先生、矢澤慶一先生、田鍾寛先生、山田淳貴先生とシニアレジデント2～4名の計8～10名で、また乳腺外科では、清水大輔先生、須藤友奈先生、藤田亮先生の3名で診療を行っております。全体の手術件数は外科、乳腺外科とも昨年度より増加傾向でした。

当院は、全国有数の救急車受け入れ台数を誇る施設です（昨年度は全国第2位でした）。それに伴い緊急手術も多く、消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、絞扼性腸閉塞など、外科医が習得すべき緊急手術を数多くこなしております。しかし、当院の宿日直が夜勤、休日勤務となっていること、働き方改革による長時間連続勤務制限により、常に宿直開け、代休のために実質1～2名減員の体制で診療にあたり、人員の厳しい状況ではありましたが、これまで同様に可能な限り急患をお断りすることなく対処する方針を継続しております。

外科は、肝胆膵グループと消化管グループの2チームにわかれ日々の診療にあたっています。肝胆膵領域では、杉田を中心に本年度より勤務の矢澤先生とともに、膵頭十二指腸切除や肝切除の高難度肝胆膵外科手術を、また症例に応じて腹腔鏡下肝切除、膵体尾部切除も積極的に行っております。2024年は高難度手術件数が増加し、2025年度の肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設の認定申請を行えました（現在結果待ちの状態です）。大腸・肛門領域では、ほぼ全例で鏡視下手術を行っています。



ロボット手術はこれまでの直腸手術に加え昨年度より結腸手術にも導入し、週に1～2件のペースで行っております。その一方、若手医師の教育機会の確保のため、結腸癌に対する腹腔鏡下手術もこれまで同様行い、シニアレジデントにも術者を施行してもらっています。上部領域では、佐藤先生が赴任以降、鏡視下手術の適応拡大を進め、現在、進行例を含む胃癌のほぼすべての症例で、食道癌に対しては全例で鏡視下手術を施行しております。さらに今年度よりロボット支援下胃切除も開始し、順調に導入が進んでいます。

乳腺外科も3名体制で手術、外来診療にあたっていますが、常に忙しく、多数の患者をかかえ、手術の待ち時間が月単位となっている状況です。

赤十字病院としての側面と同時にがん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、質の高い医療を提供できるようにこれからも精進してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

（文責：杉田光隆）

## 横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2  
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

横浜掖済会病院は全国8か所にある掖済会病院の1つで、地域住民の皆様の医療の充実および健康の増進に尽力し、さらに社会福祉の面でも貢献しております。

今年度は、昨年度と同様の体制で佐藤芳樹先生（副院長）、山口直孝（平成13年卒）、山田淳貴先生（平成24年卒）の常勤3人で診療を行い、7月からは清水亜希子先生（平成27年卒）が産休明けで仕事に復帰され山田先生と交代で診療を行っています。

手術症例数は、主に鼠径部ヘルニア87例（腹腔鏡73例、前方法14例）、腹壁癒痕ヘルニア6例、胆嚢摘出術18例な

ど、189例と多くはありませんが、今までの方針に沿い、rotatorの先生に手術を執刀していただく機会を確保しております。鼠径部ヘルニアの手術症例数は昨年とほぼ同程度の症例数ではありましたが、さらに多くの症例数を確保すべく近隣の開業医の先生方との連携を一層深めていきたいと考えております。

一方で、横浜市立大学附属市民総合医療センターから渡邊純先生の後を引き継いで諏訪雄亮先生に非常勤で来ていただきました。横浜市立大学附属市民総合医療センターで施行した直腸癌術後の回腸人工肛門形成状態の患

者様をご紹介いただき当院で22例の回腸人工肛門閉鎖術を行わせていただきました。また、大腸癌の腹腔鏡手術に関してもご指導いただきました。また、水曜日には横浜市立附属病院の松山隆生先生に非常勤で来ていただき、腹腔鏡下胆嚢摘出術や開腹手術（胃癌、大腸癌）などの手術を行うことができました。

金曜日の午前中には、横浜市立附属病院から非常勤で来ていただいた紫葉裕介先生（平成31年卒）に、主に回腸人工肛門閉鎖術やヘルニア手術になりますが、執刀していただき、当院で行っている手術手技、特にヘルニア手術では高位腹膜切開による腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治

術の手技を習得していただきました。

横浜掖済会病院の基本理念である『掖済（導き・助ける）の精神に基づき、安全・信頼・敬愛の医療を目指す』に沿って、患者様とのコミュニケーションを大切にし、患者様中心の満足度の高い医療を目指しております。急性期一般病院として、また、大病院の後方支援を担いながら近隣の開業医の先生方から気軽に患者様をご紹介いただける病院を目指しつつ、新病院移転に向けて今後もなお一層努力を続けていきたいと思っております。

これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。（文責：山口直孝）

## 藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1

TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545



2024年度の人事異動では、浅野、森、佐原が退任し、代わりに堀、竹之内、本田が着任しました。診療体制は、山岸、牧野、菅江、南、千田、堀、竹之内、本田に加えて、外科専攻医1年目の棚田と東京科学大から1名、湘南藤沢クリニックから1名派遣を加えた11名で診療しました。例年同様に、堀、竹之内、本田と東京科学大からの1名が救急外科をローテートし、緊急手術、外傷治療に携わりました。

2024年1月～12月の外科手術件数は、総数863例（2023年932例）で、定時手術587例、緊急・臨時手術276例でした。緊急手術は若手外科医が担当し、手術適応・説明と同意・手術・術後管理を一貫して行い、修練の場となっています。領域別の手術件数は、乳癌170例、胃癌36例、結腸癌114例、直腸癌44例、原発性肝癌2例、転移性肝癌6例、胆道癌3例、膵癌10例、胆石症55例、虫垂炎99例、鼠径ヘルニア115例でした。今年度も乳癌症例多く、前年と同数でした。それに伴い乳腺外来も患者さんが非常に多く、また、菅江は、当院でのゲノム医療の中核的役割を担っており、大変多忙な状態であります。月曜日は横浜市立大学附属病院から派遣の押が、火、木曜日は外勤医師が診療し、さらに、本年度から湘南藤沢クリニック

から1名派遣された医師が、外来、手術、病棟管理も行うようにし、菅江の負担軽減に努めています。胃癌は疾患自体の減少と消化器内科が積極的にESDを施行することが相まって、年々減少傾向ですが、LDGは年間12例に施行しました。大腸癌に対する腹腔鏡手術は72例（52.6%）、ロボット支援手術57例（41.6%）、開腹8例（5.8%）でした。肝・胆・膵は例年通りで、腹腔鏡下での肝切除や膵体尾部切除も安全に行っています。

今年も地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」を開催し、微力ながら地域貢献できたものと考えております。また、地域の開業医の先生方と消化器内科、外科合同カンファレンスは引き続き継続し、2か月に一度院内で紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行い、顔の見える交流の重要性を認識しています。

学術関連は、学会発表が36演題（パネルディスカッション1演題、ワークショップ2演題、サージカルフォーラム2演題）で、論文発表は筆頭が1題、共著が1題でした。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

（文責：牧野洋知）





## ◆ 関連施設勤務者

部 長	長谷川誠司 (H.2)
	上田 倫夫 (H.6)
外科医員	三宅 益代 (H.21)
	豊田 純哉 (H.26)
	木下 颯花 (H.28)
	富田疏富人 (H.29)

済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、32診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、地域医療機関との病診連携も推進し、神奈川県がん診療連携指定病院として、がん診療支援センター（センター長：長谷川）を中心にがん診療体制の充実を計っています。2020年からのコロナ禍の影響も徐々に薄れ、地域医療機関との連携研修会や市民公開講座等、地域の方々との交流も再開しています。

当院は第二外科と第一外科の両医局から派遣されており、第二外科からは長谷川誠司、上田倫夫、三宅益代、豊田純哉、木下颯花、窪田疏富人の6名、第一外科からは虫明寛行、土田知史、中園真聡、本庄優衣、杉山敦彦、坂口裕介、福田桃子、大野祥一郎、小林美駒の9名、計15名でした。乳腺外科は独立し、吉田達也、岡本咲、佐藤泉の3名でした。

外科手術は例年の1,200件／年程度で、コロナ禍以降は1,000件台に減少したままでしたが、悪性疾患は胃癌56件、大腸癌160件、肝胆膵系癌69件、乳癌134件と徐々に手術件数も回復してきました。12月には、待望のDa Vinciが導入され、ロボット支援手術も加わり、更なる質の向上を目指しています。良性疾患はヘルニア関連手術198件と若干減少しましたが、緊急手術は、虫垂炎70件、イレウス40件と相変わらず多数の症例を行っており、急性期充

実体制加算届け出に必要な全身麻酔による緊急手術の半数近くは外科で担い、収益にも大きく貢献しています。

薬物療法は外来薬物療法センター（センター長：長谷川）を中心に施行しています。全体の施行件数は2015年の4,000件／年程度から年々増加の一途をたどり、2024年は6,800件を超えました。うち、乳腺は15%を占めていますが、乳腺を除いた外科だけでも28%を占め、単科としては最多を維持しています。一方、症例数の増加に伴い時間外診療の増加等、患者様・医療スタッフへの負担が課題ですが、薬物療法運営を見直し、治療前問診、実施指示、ミキシング等のシステムの整備やタスクシフトは順調に進み、課題の克服、質の向上に反映されつつあります。

虫明寛行が外科主任部長を担い、総合患者支援センター（入退院支援、福祉医療相談、地域医療連携）も兼務しておりますが、地域連携、がん診療といった当院の中心的な役割を外科が担っています。

開院から40年以上経過し、施設の老朽化・狭あい化が課題の中、2028年度の移転新築による再整備事業を開始していましたが、新病院開設に向けては資材の高騰等により一部計画の見直しが必要とされるなど、新たな問題も山積しています。それでも、地域医療支援病院として、また、がん診療連携拠点病院の認定取得を目指しつつ、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者様の信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していききたいと思います。

これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）

一般財団法人  
**育生会横浜病院**

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7  
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院長 長堀 優 (S.58)  
外科部長 上向伸幸 (H. 6)

老健、特養を併設している当院は、急性期大病院の機能を補てんすべく、高齢者医療に力を入れているのが特色です。急性期病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

さらに200床以下の当院は、訪問診療を担ういわゆる「在宅療養支援診療所」の医師との連携を結ぶことができます。当院と連携した診療所は、入院ベッドを確保しているものと認定され、医学総合管理料に則り、患者宅ないし施設を訪問した際に加算を得ることができます。また、連携診療所からは、訪問している患者さんの緊急時（看取り、熱中症や肺炎など）や、レスパイト入院（一時預かり）、リハビリ入院などを当院に依頼されることとなりますが、令和4年度は、患者の緊急入院依頼が

激増しています。

このように連携診療所と当院が密に協力し合い、良好な連携を築くことが、そのまま地域医療への貢献につながり、地域包括医療を充実させていくものと考えています。

外来診療でも、JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、聖隷横浜病院、医師会の先生方等、近隣医療施設からのご支援を頂き、糖尿病、泌尿器、皮膚科、整形外科、緩和ケア、小児科、婦人科、漢方内科等の専門外来を開き好評を得ています。令和6年4月より、形成外科専門医により、眼瞼下垂手術、皮膚ケミカルピーリング、ビタミンCイオン導入が開始され、徐々に患者さんが増えてきています。

なお、令和6年4月より、JCHO横浜保土ヶ谷中央病院に勤務されていた上向伸幸先生が当院の外科部長として赴任され、外来、病棟診療が活気づいてまいりました。この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療を充実させてまいります。

（文責：長堀 優）

医療法人裕徳会  
**港南台病院**

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41  
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

港南台病院のこの1年について報告します。引き続き嶋田絃名誉教授（S44卒）に顧問として勤務していただき、外来、訪問診療にもご活躍いただきました。また大塚裕一（H8卒）が引き続き院長として勤務しております。大学消化器腫瘍外科医局、センター病院、呼吸器内科教室、肝胆膵消化器病教室、形成外科教室、南部病院外科、整形外科などの協力をいただいていたのに加え、昨年より、臨床腫瘍科市川靖史教授にもお手伝いいただいております。かねてより、地域のなかでニーズがあり、かつ地域内で他の病院、施設では行われていないようなユニークな業務を続けていくこと、地域の方々ご自身に「わたしたちの病院」として信頼いただける関係性を構築することが、大きな目標となっています。このようなものを見つけ出すには、地域のなかのステークホルダー（これには患者さんご自身も含まれます）や地域外で活躍されている医療機関、施設の方々と忌憚のないお話をさせて頂くことが肝要と思います。私自身もともと引っ込み思案な性格ではありましたが、嶋田先生をはじめいろいろな方に背中を押してもらいながら、教えを請いに伺ったり、法人に来ていただき講義をしていただいたりしてそ

のようなものを見つけようと試みてきました。その中で力を入れていくべきと考えられ実行に移しているものとして、嚥下リハビリの強化について、緩和医療について、CARTによる腹水治療などについて注力していく方針となりました。まさにいわゆる「選択と集中」になります。新規入院患者のほぼすべてに嚥下内視鏡もしくは嚥下造影検査を行い家族、施設の方と一緒に評価を行い今後の経口摂取の目標を立てる。横浜国立大学、横浜南共済病院や裾野赤十字病院の緩和医療のエキスパートを招聘しレベルアップを図る。他院にて抗がん剤通院中で腹水を有する患者に、抗がん剤投与インターバルに当院でCARTを行い、PSの維持を図ることで他院での治療の継続やADLの向上につなげる、などを新たに行ってきました。CARTについては特にがん性腹膜炎に伴う腹水治療ですと、がん性腹膜炎以外の病変との兼ね合いで、なかなか生命予後の改善にはつながらないのですが、少なくともCARTが終わったあとの患者さんの、体が軽くなったと喜ぶ表情、昨日より食べることができたという笑顔に接すると、数値化できるメリットがたとえ乏しくても、続けていかなければならない治療であると確信しています。



私はCARTの際に、特に粘調の強い腹水症例などで腹水  
排液ルート内の腹水が順調に流れているか確認するため  
に、排液中は可能な限りベッドサイドで椅子に腰を掛け  
て1-2時間患者さんの横で過ごしなが、必要に応じて  
体交を促してみたり、ルートをミルキングしてみたりす  
ることにしています。この時間、私と患者さんは色々な  
お話をします。病気そのものについては勿論ですが、子  
供のことお孫さんのこと、先立っていったご家族のこ  
と、故郷のこと、されてきたお仕事のこと、今になって  
やっておけばよかったと思っている後悔のようなことな  
どたくさんのお話しされる場面に接し、とても大  
切な時間となっています。その後の経過で旅立たれ、ご

家族と振り返りを行う際に、腹水排液のときにご本人が  
私にお話しくださった様々なことをお伝えするとご家族  
はとても感慨深く思われるようです。毎日の通常業務は  
とても忙しく、院内、訪問先などを文字通り走り回って  
過ごしてはいますが、私にとっても患者さんにとっても、  
この排液のベッドサイドで過ごす穏やかでゆっくり  
とした時間はとても大切にかけがえのない時間であり、  
たとえ手間がいくらかかってもこの治療を続けていく意  
義を感じるとともに、この時間帯に他の業務を入れない  
ように心がけています。

(文責：大塚裕一)

## 松島病院大腸肛門病センター

当院は2023年に旧松島病院と旧松島クリニックが一つ  
の施設となり、恵仁会松島病院大腸肛門病センターへと  
生まれ変わりました。

それから丸二年、肛門科と胃腸科（内視鏡センター）  
が協力しあい患者さんの診療にあたるという努力を少し  
ずつ積み重ねてきたものが形となって現れてきました。  
特にIBD（炎症性腸疾患）においては、肛門科診療では  
明らかにクローン病と考えられるのに腸管の所見がでて  
こないような場合もあり、互いに話し合って治療をすす  
めていくことがより容易にできるようになりました。

松島病院は昨年創立100周年を迎え、秋には161の施設  
の先生方やコメディカルの方々をお招きして地域連携の

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 9-11  
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

会を行うことができました。お越しいただいた方々に厚  
く御礼を申し上げます。

この時にご案内いただきましたが、昨年秋に地域の先生  
方のお電話を直接肛門科医師が受けることのできる「ダ  
イレクトライン」を開設いたしました。日曜祝日を除く  
午前8時半から午後15時まで受け付けておりますので、  
緊急時、または直接私共に相談したいことがございましたら  
どうぞご活用下さいますようお願い申し上げます。

地域の先生方に、よりお役に立てる病院になるべく、  
また今後も患者さんにとってよりよい診療を提供するた  
めに松島病院は一丸となって進んで参ります。

(文責：肛門科長 松村奈緒美)

## 医療法人社団康喜会 辻仲病院 柏の葉

皆様お久しぶりです。当院は千葉県柏市にあり、近く  
に東大や千葉大のキャンパスもあり、国立がんセンター  
東病院もあります。がんセンターとは時に共同研究など  
も行っており環境には恵まれていると思います。今年度  
新しく理事長に松尾先生が就任しました。病院としては  
手術件数は増えてきており、大腸がんの手術も150件程度  
行っております。内科ではIBDの患者も多く、治験も約40  
件行っています。これはおそらく日本でトップクラスの  
実績です。内視鏡は相変わらず年間2万件以上あり、ESD  
も多くなってきました。肛門科は年間約2,000件行ってい  
ます。骨盤臓器脱では経腔的手術は250件程度行ってい  
ましたが、今年は都合により件数が下がる見込みです。  
腹腔鏡下は直腸固定術や仙骨腔固定術を行っており、直  
腸脱、子宮脱合併症例も多数あり単科で手術しているの

〒277-0871 千葉県柏市若葉 178-2 柏の葉キャンパス 148 街区 6  
TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

はトップクラスだと思います。経肛門的に行うデロルメ  
法も多数行っており、先日しらべてもらったところ開院  
以来3,000件行ったそうです。創設者の辻仲先生は第2外  
科出身ですが、現在は自分と松尾先生の2名だけです。

骨盤臓器脱などまだまだ人手が足りません。横浜とは  
かなり離れていますが興味のある方はぜひ見学に来てく  
ださい。

(文責：浜畑幸弘)



## 伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

2024年度は、前半専攻医が不在で腫瘍外科の神谷と、城野医師、天池医師、小倉医師の常勤4名でスタートしました。ところがGWに1名が怪我で長期離脱を余儀なくされたため前半は3名体制でした。後半は専攻医が加わりましたが10月に城野医師が退職となり4名体制でした。

前年度までは5名体制で安定していましたが今年度は外科が3名～4名となり、また2名だった麻酔科も年末に体調不良で1名が退職したため、定時／緊急ともに手術件数は減少してしまいました。次年度も前半は専攻医が不在で、外科3名+麻酔科1名という、考えてみれば10年前の状況と同じ、になる見込みです。

総手術数は299件（前年度335件）、緊急手術は50件（同65件）でした。内訳は大腸癌の根治手術が36件（うち鏡視下手術約86%）、胃癌8件、乳癌21件、鼠径ヘルニアが75件（TAPP+TEP 64件）などとなっています。外科と麻酔科のスタッフが減り夜間や休日の緊急手術が減少、予定手術も並列しづらくなったのが原因です。

医師確保についてですが、横に長い静岡県は医師遍在が著名で、浜松医大を中心とした西部と県庁を中心とした中部に比べて、富士市以東の東部地区では医師確保が特に難しくなっています。医師を派遣できる大学病院が浜松にしかないこと、東部地区が首都圏と静岡の中間に

位置していて若手医師が家族で移住しにくいこと等が原因と、私個人的には考えています。いっぽう静岡県のキャリア形成プログラムを利用した医師は毎年100～120名輩出され、すでに県内各地で勤務していますが実際は西部：350人、中部：203人、東部：118人（2023年4月）と、ここでも偏りが見られます。県が2025年度から「東部地区に力を入れる」と方針を示しましたが西高東低の力関係が垣間見え、なかなかスムーズに進まなそうなのが現状です。

伊東市や東伊豆地区で手術が必要と考えられる患者さんの数はまだ減少しているわけではありません。地域のためと考えれば当院で手術を受ける意義があり、麻酔科・外科の医師確保が急務です。

現在当院は連携先である消化器腫瘍外科と地域医療振興協会の関連施設から専攻医の派遣を受けていますが、今後は県の奨学生も受け入れられるよう、近隣の基幹施設との連携も視野に入れ、人員確保に努めてまいりたいです。

これからも消化器腫瘍外科クオリティの、患者さんに優しい診療を提供できるよう取り組んでゆきたいと思えます。本年度もよろしくお願い申し上げます。

（文責：神谷紀之）



病院PR用にドローンで撮影した遠景です。ヘリポートの奥あたりがホームベースの、野球場の形をしているのがお分かりになるでしょうか？

かつて巨人の長嶋茂雄による「地獄の伊東キャンプ」が行われた伊東スタジアムの跡地に病院が建っています。



## 藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉 2345

TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

皆さんこんにちは！！

藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立されて以来、湘南東部（藤沢北部）地域の中心的病院として、医療の充実に努めてきました。そして、とうとう創立90年を超えて、100周年を目指して頑張っております。

現在、急性期一般病棟210床、緩和ケア病棟19床、地域包括ケア病棟30床、HCU 8床、回復期リハビリテーション病棟33床、療養病棟30床の合計330床を有しております。

現在、当院には第二外科から小泉泰裕先生と鈴木紳祐の2人、第一外科から11人の医師がおり、一体となって日々診療に当たっております。小泉先生が、ERセンター長、鈴木が病院長として臨床・経営に奮闘しております。出身科に分け隔てなく、和気藹々とした雰囲気です。研修医は2024年から単独7人、襷掛け3人と2学年で20人に増えました。

これらの人員で、堅実に多くの定時手術を行いながら、「断らない診療」をモットーに、多くの緊急手術も行っております。

当院では、da Vinciサージカルシステムを用いたロボット手術を湘南東部地域で最初に導入しました。2024年末までに250例程の手術を4人の腹腔鏡技術認定医、プロクターで行い、大きな合併症なく経過しております。今までに3名のプロクターを輩出し、現在では10年目の医師がプロクターを目指し、執刀を続けております。2024年5月にはda Vinci Xiに機器を入れ替えたので、より一層良

い手術を提供できると思います。

また、2020年6月から日本で唯一「直腸脱に対するロボット支援下直腸固定術」を開始し、40例程手術を行い、再発なく経過しております。便漏れに対する仙骨神経刺激療法も積極的に行っており、便失禁の患者様も遠方からご紹介いただいております。便漏れの患者さん自体、数百万人いると言われておりますが、直腸癌術後の患者様でみられるLARSの方、UC大腸全摘後の方そして肛門疾患手術後の方にも有用な治療と言われております。第二外科の関連病院ですと、どの病院も多くの直腸癌手術を行なっておられると思います。術後の便失禁でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、是非ご紹介いただけますと幸いです。現在、年間30例ほど仙骨神経刺激療法を行っており、この件数は、全国一位でアジア・ヨーロッパの施設の中でも10位前後です。興味がある方は、是非手術の見学にいらしてください。

最後に、当院では古くなった病棟の建て替えを開始しております。それに伴い、解体祭り（2号館ありがとう祭）を開催しました。5時間ほどの開催でしたが、1,500人ほどの方が来院してくださり、お祭りの様子をNHKさんが取材に来てくださいました。仕事もするけど、遊びも祭りも手を抜かない。そんな生活にご興味ある方、是非当院に遊びにいらしてください。職員一同お待ちしております。

（文責：鈴木紳祐）



取り壊しの始まった旧病棟

医療法人社団 松田会  
荒川外科肛門医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川 4-2-7 TEL 03-3806-8213  
FAX 03-3803-7224 URL <https://www.ara-kou.com/>

医療社団法人 荒川外科肛門医院は、1985年3月16日に同門の松田好雄先生が東京都荒川区荒川にご開院され、創設40年になる19床の診療所です。延べ患者数は12.6万人で、評判を聞いて遠方からも受診されます。肛門疾患の診断、治療、手術をはじめ、消化管疾患を中心に診療致します。

松田先生は、帝京大学医学部第一外科講師をされた後、所沢肛門病院（当時院長は金井忠男先生、S45年卒）の副院長を経た後、同門である金井先生より、大腸肛門疾患に特化した医院の開業を進言され、開院されました。多くの同門の先生方の励ましにも支えられ、今も現役でおられ、その診療姿勢は、患者さんにとり、とても安心、満足できるようです。

筆者は、横浜市立大学医学部を1981年に卒業した後、女性医師第1号として外科学第二（現 消化器・腫瘍外科学）に入局後、土屋周二教授（2019年1月28日ご逝去）のご紹介で、1991年から荒川外科肛門医院に勤務させて頂いております。

2003年から診療所は明治通りに面し、毎年、より一層患者さんに取り、居心地の良い場に改造しております。同門の堀 嘉一郎先生（群馬大学医学部S51年卒）、東京大学医学部付属病院大腸肛門外科、日本医科大学付属病院外科などのご協力もあって、日常診療、手術、検査など安全第一に最善を尽くしております。

○肛門疾患診療では、女性医師が2人おり、川崎医科大学卒の新進気鋭の女性外科医と筆者ですが、女性患者さんや肛門診察に緊張気味の患者さんにとって、受診しやすいのではと自負しております。

痔疾患の手術は、腰椎麻酔下に行い、その総数は、

毎年約1,000件前後です。その内訳は、四段階痔核硬化療法、痔核・裂肛・痔瘻の根治手術、直腸脱根治手術等。特に痔瘻根治手術209例のうち、Ⅲ型痔瘻19例にHanley変法が施行されています。

○2024年度 消化器検査の実績としては、上部消化管内視鏡検査3,810件、下部消化管内視鏡検査（大腸）5,261件、また腹部超音波検査1,069件です。下血などは即日、緊急内視鏡検査を致します。

○炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）では、中等度の潰瘍性大腸炎、痔瘻合併クローン病では生物学的製剤などを取り入れて診断はもとより、治療を行っています。同門の先生方にご指導していただいたことを基本にしております。

当院は、東大病院の卒後臨床研修プログラムに組み込まれております。はじめのうちは産婦人科入局希望者が多かったのですが、次第に様々な専門医師を目指す先生方が研修されるようになり、積極的な姿勢が見られます。医師以外の才能にも恵まれている方が多く、多様性の今の時代を反映していると感心しています。

患者さんの説明などでは、性差診療を重視した診療のあり方や疾病の予防に目を向けるように行い、近隣の先生方との医療連携を取りながら仕事しております。

当院は、開放的なイメージを大切にしており、スタッフの活気が溢れた家族的な診療所です。

横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学 同門会の益々のご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

（文責：大高京子）

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22  
TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。2022年度から消化器・腫瘍外科からは樺山1名のみの体制となっています。

2024年度の手術件数は、緊急手術を含めて約1,200件でした。特に、地域の開業医の先生方々と外科医とが直接相談できる腹痛ホットライン経由での緊急手術症例も多く、悪性疾患の症例だけでなく、急性腹症の手術も数多く行っております。

NTTの外科は上部、下部、肝胆膵&ヘルニア一般の3チームで編成されており、専攻医は、外科専門医はもち

ろん、消化器外科専門医に必要な症例を3か月毎のローテーションで経験していただいております。

大腸癌手術は原発切除が約200例/年を維持しており、直腸癌も約60例前後を維持できております。大腸癌手術数に関しては都内での症例数の比較的多い施設となっております。消化器内科が内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もありますが、きっちりとした外科治療ができているのも選ばれている理由だと思っております。手術は腹腔鏡手術を中心



に行っておりますが、一定数開腹手術も経験できるようにもしております。ロボット支援下手術は食道癌、胃癌、膵体尾部癌、結腸癌、直腸癌で行われております。大腸癌領域は併せて50例以上施行しております。現在ロボットはda Vinci Xiの2台体制となっておりますので、大幅にロボット支援下症例が増えております。

ロボット支援下手術は、2022年12月からは術者資格が大幅に緩和されたのに伴い、消化器外科専門医はもちろん、助手経験を積めば誰でも執刀するチャンスがあります。実際に2024年度は、専攻医に執刀してもらったロボット支援下大腸癌手術数は11例になります。また、助手資格のない先生には積極的に助手のcertificateを取っていただいて、手術に参加してもらいます。

上部チームでも胃癌・食道癌手術もロボット支援下で

行います。また、肝胆膵チームではロボット支援下膵体尾部切除を開始し、腹腔鏡下肝切除も徐々に増えてきております。癒痕ヘルニア、鼠経ヘルニア、虫垂炎症例も積極的に腹腔鏡手術を導入しており、若手でも十分に腹腔鏡手術を経験することができます。

都内で、横浜市大出身の医師がほとんどいない病院ではありますが、横浜とは異なった治療や手術手技が学べますし、下部消化管の腹腔鏡手術や消化器外科専門医に必要な症例が幅広く経験できると病院だと思います。また、この病院の最大の魅力は五反田という場所にあることです。ぜひとも一緒に働いて五反田の魅力を存分に楽しみましょう。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

(文責：樺山将士)

## 令和7年度 関連施設勤務者

(2025年4月現在)

### ●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2  
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

外科部長・医療管理部長

藤井 義郎 (H3)

外科部長・化学療法センター長

松田 悟郎 (H5)

外科部長 清水 哲也 (H9)

外科医長 木村 準 (H15) 村上 崇 (H18)

医 師 藤原 大樹 (H24) 木村 安希 (H25) 大石 裕佳 (H26)

### ●横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1  
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580

消化器外科科長 部長 (消化器病センター長兼務)

望月 康久 (S62)

消化器外科部長 田中 優作 (H19)

消化器外科医長 清水 康博 (H22)

消化器外科副医長 武井 将伍 (H25)

医 師 木下 颯花 (H28) 今西 康太 (H31)

炎症性腸疾患 (IBD) 科 科長・部長 (炎症性腸疾患センター長)

辰巳 健志 (H12)

医 長 後藤 晃紀 (H20)

乳腺外科科長 部長 嶋田 和博 (H15)

部 長 小谷 (鬼頭) 礼子 (H9) 門倉 俊明 (H18)

### ●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1  
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

副院長／医療技術部長／栄養室長

山岸 茂 (H7)

診療科部長 牧野 洋知 (H8)

専門医長 中川 和也 (H17) 太田 絵美 (H21) 矢後 彰一 (H23)

医 師 油座 築 (H24) 本田 祥子 (H31)

乳腺外科 診療科部長

菅江 貞亨 (H12)

### ●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1  
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長 兼 診療部長 兼 外科部長

神谷 紀之 (H4)



# ●横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2  
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

管 理 者	関戸 仁 (S58)
副病院長	長嶺弘太郎 (H6)
主任医長	中山 岳龍 (H20)
医 長	三宅 益代 (H21)
医 師	堀内 真樹 (H27)

# ●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1  
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長	和田 朋子 (H20)
乳腺外科医師	村上 剛之 (H26)

# ●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211  
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長	乳腺外科部長
	山本 晋也 (H16)
乳腺外科医師	笹本真覇人 (H27) 土屋 一途 (R1)

# ●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16  
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病 院 長	長堀 薫 (S53)	
外科部長	野尻 和典 (H12)	
消化器病センター副センター長	外科部長	
	熊本 宜文 (H12)	
副 部 長	小野 秀高 (H10)	諏訪 宏和 (H15)
医 長	吉田 謙一 (H8)	大田 洋平 (H16)
医 員	大坊 侑 (H28)	
乳腺外科医長	須藤 友奈 (H26)	

# ●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1  
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

外科部長、肝胆膵外科部長		
	杉田 光隆 (H5)	
食道・胃外科医副部長		
	佐藤 圭 (H18)	
医 長	矢澤 慶一 (H20)	千田 圭悟 (H24)
医 師	田村 裕子 (H25)	佐藤 清哉 (H27)
院長補佐・乳腺外科部長		
	清水 大輔 (H8)	
医 長	鈴木 千穂 (H22)	
医 師	藤田 亮 (H28)	

●**済生会横浜市南部病院**

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10  
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

副診療部長・部長 長谷川誠司 (H2)  
外科部長 上田 倫夫 (H6)  
副部長 有坂 早香 (H20) 笠原 康平 (H20)  
医 長 平井 公也 (H25)  
医 員 小林 圭 (H29)

●**JCHO横浜保土ヶ谷中央病院**

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1  
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

病 院 長 國崎 主税 (S59)  
診療部長 武田 和永 (H6)  
部 長 中畠 雅之 (H14)  
医 師 中崎 佑介 (H25)

●**横浜掖済会病院 外科**

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2  
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

部 長 山口 直孝 (H13)  
医 員 堀 達彦 (H26) 清水亜希子 (H27)

●**NTT東日本関東病院 外科**

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22  
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長 樺山 将士 (H14)

●**育生会横浜病院**

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7  
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長 長堀 優 (S58)

●**港南台病院**

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41  
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

院 長 大塚 裕一 (H8)

●**松島病院**

〒220-0041 横浜西区戸部本町9-11  
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理 事 長 松島 誠 (S53)  
肛門科長 松村奈緒美 (H5)

●**藤沢湘南台病院**

〒252-0802 藤沢市高倉2345  
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

病院長 副理事長 大腸肛門病AELICセンター副センター長  
患者総合支援センター 副センター長  
鈴木 紳祐 (H19)



●関沢クリニック

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28  
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

院 長 関澤健太郎 (H19)

●荒川外科肛門医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7  
TEL 03-3806-8213

院 長 松田 好雄 (S43)  
副 院 長 大高 京子 (S56)

●医療法人社団康喜会 東葛辻仲病院

〒270-1168 千葉県我孫子市根戸946-1  
TEL 04-7184-9000

院 長 松尾 恵五 (S59)

●特定医療法人社団鵬友会 ゆめがおか総合病院

〒245-0019 横浜市泉区ゆめが丘30-1  
TEL 045-803-1601 FAX 045-803-1605

一般外科 科長 三邊 大介 (H2)